



---

# 社会人基礎力養成のための 授業満足度アンケートのご提案

---

株式会社ソファー

CESソリューション事業部

# はじめに

私達の社会を取り巻く環境は、今、大きな変化の波を受けています。そのような中、働く人々にとって、以下3つの行動が重要となっています。

## ①「外(異)」への対応

ボーダーレスに展開するマーケットにおいては、「外」に目を向け、バックグラウンド(専門性、文化、価値観等)の異なる人々と協働する力、自分の専門分野と異なる「もの」「こと」に目を向け、それらを自らのコアと結びつける力を身につけることが望まれています。

## ②「学び直し」への対応

技術・製品のライフサイクルが高速化するという環境変化を踏まえ、企業の採用や人材育成等においても「学んだ結果」以上に、その過程において身につけた学ぶ姿勢・行動特性・着想等を重視し、望ましい行動の再現性に注目する傾向がみられています。

## ③求められる「主体的行動」

ICT化の進展等により職場環境が整備されたことにより、単純な仕事は機械化され、またグループで取り組んだ業務は一人でも十分に対応できるサイズへと効率化が進んでいます。このような仕事の現場の変化の中で、若者に求められる業務の質も高度化する傾向があり、また一人で仕事を進める場面も多くなることで、ますます自らが主体者となって仕事をデザインし、周囲に働きかけ、巻き込んでいく行動が求められています。

このような時代の要請を受けて、経済産業省では、これからの職場や社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基盤的能力を「社会人基礎力」として提唱、大学教育の変革を求めています。

社会人基礎力養成のポイントは大学教員の質の向上であります。教員自身がPDCAサイクルを回す力を向上させ、社会人基礎力の具現者となり、活力ある教育集団の形成こそが、大学の将来像実現には不可欠です。

このような状況を踏まえ、貴学における教育のPDCAサイクル構築と学生の社会人基礎力養成による就職実績の向上を推進することを目的に授業を実施する教員と受講する学生の連携による授業改善にフォーカスした企画(CES授業満足度アンケート)を提案させていただく次第であります。

是非、本提案のご導入を検討いただきますよう、お願いいたします。

# 1. 授業満足度アンケートの目的

授業満足度アンケート実施の目的は、教育の質の保証を前提に

## ①教員の意識改革

学生の気質や初中等教育の変化を教員自身が認識することが前提となります。

②学生が卒業後、社会で求められる能力育成に寄与する授業のあり方を明確にする。

## ③教員の授業スキルの向上

その上で自分の授業を学生がどのように捉えているのかを把握することにより、自らの授業を振り返り、その強みと課題を認識し、教員が授業力向上に向けての目標と行動計画(改善案)を設定し、授業の質の向上を図っていくことにあります。

学生の授業への総合満足度と  
社会人基礎力育成に寄与する授業努力を決める要因の特定  
※授業理解度、推薦度、受講動機という視点も加味して、  
授業に対する満足度に密接な関係を持つ要因を分析します

# 1. 授業満足度アンケートの目的

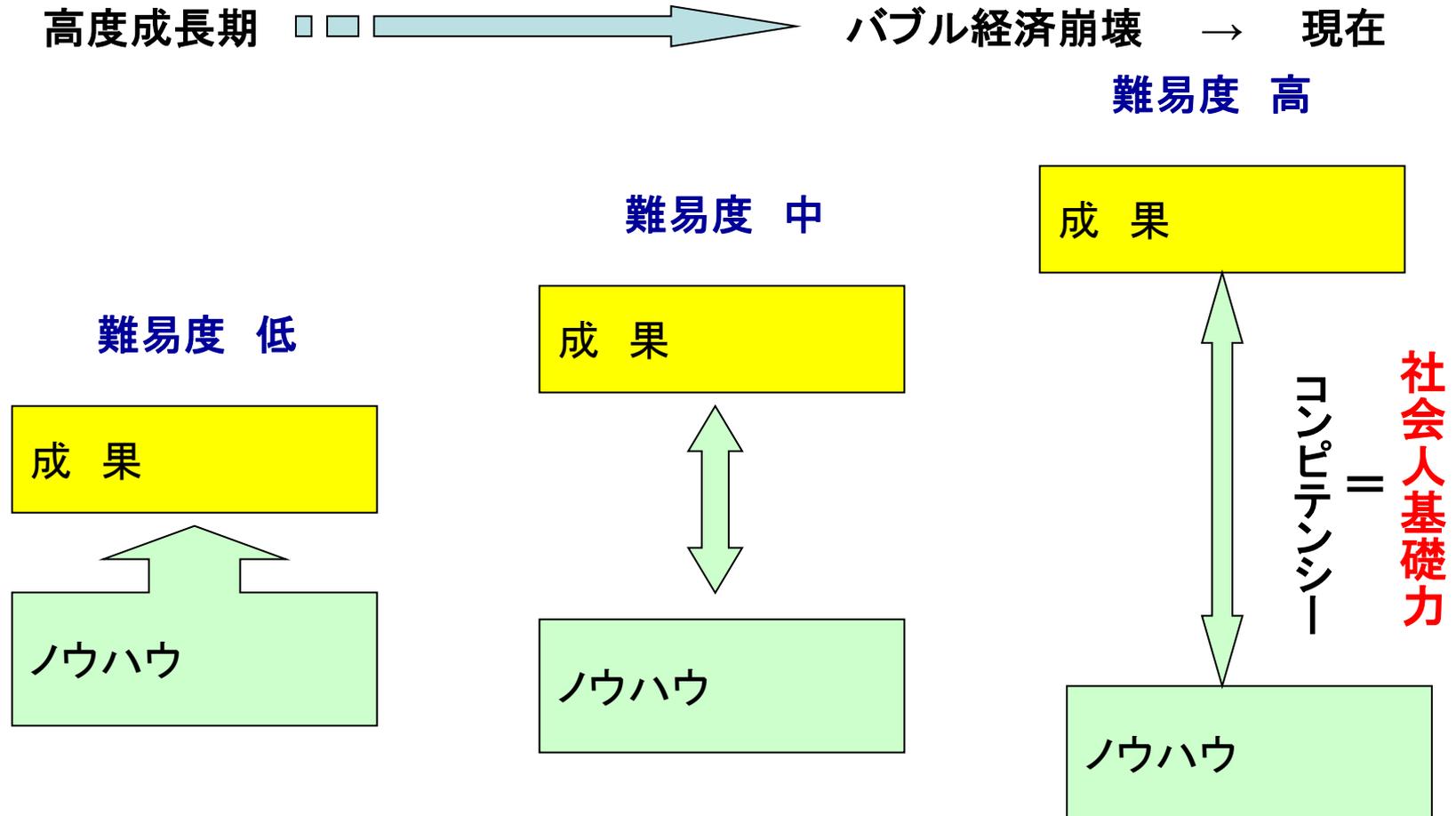
社会で求められる能力 参考1. 大学を取り巻く環境とその影響

- 少子化・大学の増加 →定員割れ
- 大学の地方・校外への移転 →集客機能低下  
 学生が大学に来なくなった。  
 集う場所の不足  
 ※大学生協の売上減少
- 同好会・サークルの減少 →疎外感→アルバイト時間の増加
- 学習設備の不整備  
 PC設置数・図書館の問題
- 講義形式の問題  
 学生に経験させたり、時間をかけて考えさせる場が少ない
- 新卒無業者(フリーター・ニート)の増加(4人に一人)  
 →問われる学部教育内容。学生は「授業を通じてやりたいこと」を見つけようとしている  
 望ましい「授業」の条件:最新の研究成果を披露するより、基礎能力を教える授業

退学者の増加

# 1. 授業満足度アンケートの目的

社会で求められる能力参考 2. 労働環境の変化  
仕事の難易度が高まっている



# 1. 授業満足度アンケートの目的

## 社会で求められる能力 参考3. 社会人基礎力を構成する3つの能力と12の要素

経済産業省経済産業政策局調査から

### 主体性

物事に進んで取り組む力

### 働きかけ力

他人に働きかけ巻き込む力

### 実行力

目標を設定し確実に行動する力

### Action 前に踏み出す力

『前に踏み出す力』は、一歩前に踏み出し、失敗しても、粘り強く取り組む力として「主体性」「働きかけ力」「実行力」を要素に構成している。指示待ちにならず、一人称で物事を捉え、自ら行動できるようになることを目指している。

### Thinking 考え抜く力

### 課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

### 計画力

課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

### 創造力

新しい価値を生み出す力

③『チームで働く力』は多様な人々と共に目標に向けて協力する力として「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」で構成する。グループ内の協調性だけに留まらず、多様な人々との繋がりや協働を生み出す力を目指している。

### Team Work チームで働く力

### 発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

### 傾聴力

相手の意見を丁寧に聞く力

### 柔軟性

意見や立場の違いを理解する力

### 状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

### 規律性

社会のルールや人との約束を守る力

### ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

『考え抜く力』は、疑問を持ち、考え抜く力として「課題発見力」「計画力」「創造力」で構成する。通常「考える」には論理性等の要素が取上げられがちであるが、社会人基礎力においては、決まった答えを導き出すこと以上に、自ら課題提起し、解決のためのシナリオを描く、自律的な思考力の獲得を目指している。

## 2. 授業満足度アンケート 設問の枠組み

### 教員の取り組み

- シラバスの作成とその提示
- 授業準備(教材・資料、組み立て)
- 学生の参加度を高める工夫(板書・パワポ、問いかけ、話し方)
- 教室設備
- 課題の提供
- 成績評価基準の明示

### 社会人基礎力

- 主体性(自分で考え調べる姿勢)
- 実行力(目標設定力、行動力)
- 課題発見力(現状を踏まえ課題設定する力)
- 課題解決力(課題解決のためのシナリオ構築力)
- 他者とのコミュニケーション力(傾聴、発信、柔軟性)

### 分析

授業への興味・関心  
学習時間  
自主学習時間  
授業への満足度

### 総合満足度

- 授業への総合的な評価と関連する設問を分析することにより、強みと課題を明確にします
- 総合的にみて満足している。
  - 後輩に薦める

### 学生の取り組み

- 出席状況
- 自学自習時間(予復習・学習時間)
- 授業への興味・関心

### 3. 授業満足度アンケート結果の活用

---

#### ①教員へのアンケート結果のフィードバック

- ・集計と項目別改善ポイントをわかりやすく示す
- ・全学・学部別の総合満足度、社会人基礎力と相関の強い授業の在り方の提示

#### ②分析報告について ※詳細は12ページ以降の集計見本をご参照ください

- ・授業改善のためのアイデアやヒントを提供する
- ・個別の報告書の公開—その授業を担当する教員、受講する学生、支援する職員などで情報を共有し、授業改善に役立てる
- ・その上リフレクションシート作成による授業改善、ピアレビューに役立てる

## 3. 授業満足度アンケート結果の活用

### ③報告書内容(案)

#### サマリー

##### [調査実施資料]

- 調査概要と対象者属性
- 学生用アンケート用紙
- 教員用アンケート用紙

##### [授業科目の改善ポイント]

- 授業科目の集計と項目別改善ポイント(例)と改善ポイントの見方
  - ・各教員に配布済みのアンケート結果(集計と項目別改善ポイント)の例を示し、その見方を解説
- 調査結果のまとめ(教員・学生)
- 学部別改善ポイント(教員・学生)

##### [学部別分析結果]

- 教員の自己評価と学生評価との比較
- 学生と教員の評価のちが(分類別)と授業満足度との関係
- 授業満足度と相関の高い項目
  - ・各項目の満足度×重要度を視覚化
- 縦軸に各項目の加重平均得点、横軸に各項目と「この授業は総合的に見て満足がいくものである」との相関係数を取り、プロット

### 3. 授業満足度アンケート結果の活用

---

#### ③集計内容(案)

##### [学部別分析結果]

- 授業満足度から見た授業改善項目
- 社会人基礎力から見た授業改善項目
- 授業理解度別の授業満足度
- クラス規模別分析
- 授業形態別分析
- 出席学生数と授業満足度の関係
- 自学自習時間と授業満足度の関係

##### [設問別集計結果]

- 基礎データ学生用設問 全体
- 基礎データ学生用設問 学部・コース別

### 3. 授業満足度アンケート結果の活用

#### ④授業満足度アンケート結果に対する教員のフィードバックに関する調査

##### 〔目的〕

学生による授業満足度アンケートの結果をもとに、教員が自分の授業をどのように自己点検し、授業の改善を図るかを検討することにより、今後の教育評価や改善方策の策定に役立てる

##### 〔調査対象・方法〕

授業満足度アンケート実施授業について、担当教員に科目別のアンケート結果及び全体報告書を配布後、その結果を見て、今までの授業改善を振り返り、今後どのように授業改善を行うかを尋ねる

##### 調査項目(例)

調査結果に対する予想と評価結果の乖離

予想より評価が高かった項目

予想より評価が低かった項目

※授業満足度アンケートを教員にも実施した場合は項目から外す

前回調査後に教員が行った授業の工夫

今後の授業に対する工夫

学生授業満足度アンケートの有効性

## 4. 授業満足度アンケートの分析

各設問について以下のデータを分析することができます。

- 大学全体
- 学部・学科別
- 科目別
- 授業形態別(演習、講義、実技・実験・実習)
- 授業規模別
- 学年別
- 教員別
- 授業理解度グループ別(※)

※この分析を行う際には、各学生の成績データをご提出いただく必要があります。

# 5. 授業評価: 集計結果イメージ

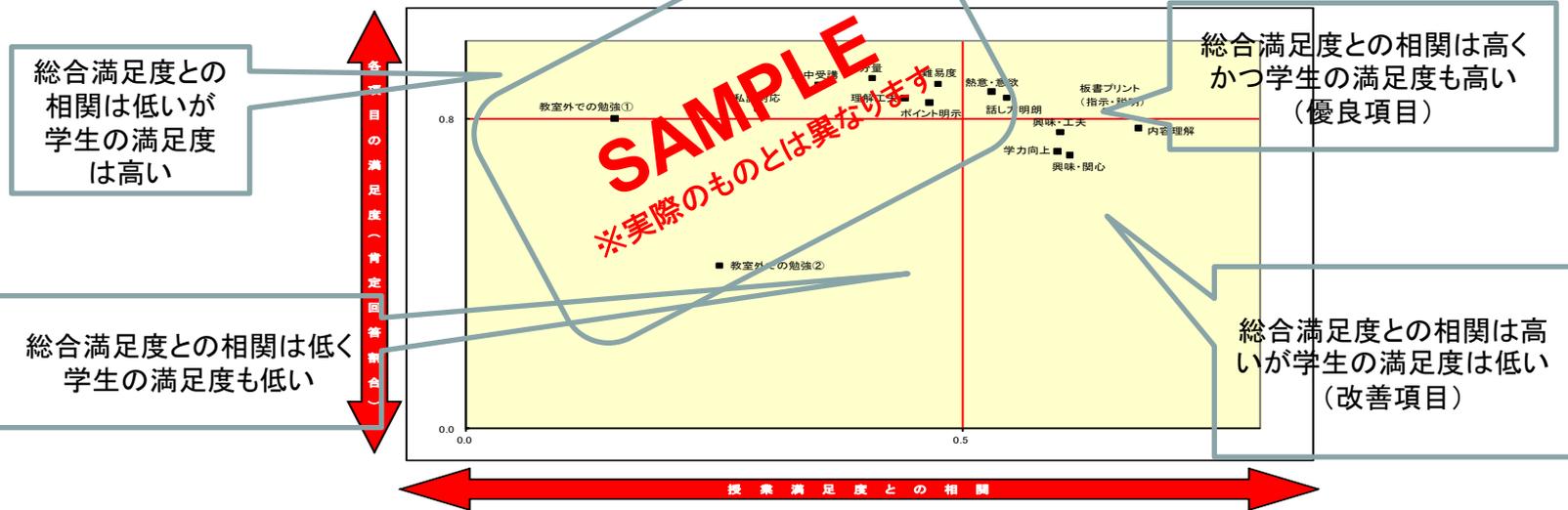
## 授業満足度アンケートの集計と分析

学生が求める授業とは？学生ニーズを分析し、授業改善の優先課題を明確にします。

### 科目別総合満足度に対する相関係数表と各項目満足度比較(散布図)

\*相関係数: 多項目間の関係性を表す係数 1~-1の間で計算され、1に近いほど正の相関が高い。

( )内は実技科目の質問内容	私は、この授業が理解できている。	この授業の先生の板書・プリント等は分かりやすい。(この授業の先生の指示や説明は分かりやすい。)													
	0.68	0.65	0.61	0.60	0.60	0.54	0.53	0.48	0.47	0.44	0.41	0.35	0.29	0.26	0.15



※1 教室外での勉強②は、一般科目のみ回答  
 ※2 選択肢「ちょうどよい」「やや難しい」の割合の合計  
 ※3 選択肢「ちょうどよい」「やや多い」の割合の合計

# 6. 授業評価: 集計結果イメージ

## 科目別 項目別 改善ポイント

10101

教員:	授業:	開講日・時期:	受講者数:
-----	-----	---------	-------

【総合的な満足度】

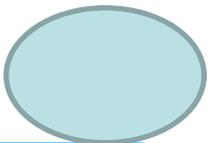
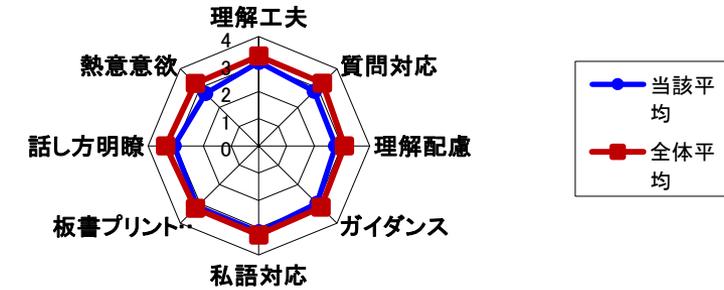
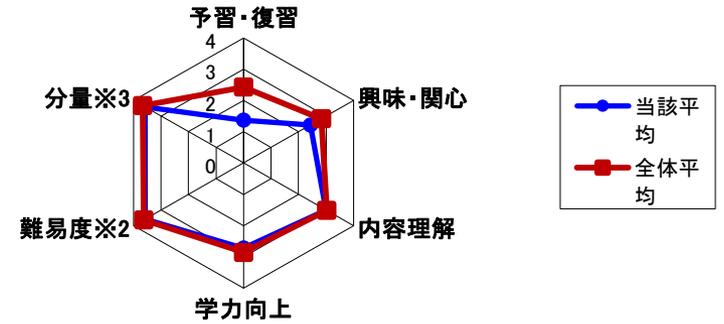
そう思う(計)※	強くそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	無回答	当該平均	全体平均
77.1%	25.7%	51.4%	5.7%	0.0%	0.0%	2.9	3.2

※【そう思う(計)】は【強くそう思う】と【ややそう思う】の合計

評価軸	質問項目	当該平均	全体平均
予習・復習	私は、この授業を理解するために予習・復習などの家庭学習をしている。〔私は、この授業について、授業時間内にも取り組んでいる。〕	1.4	2.4
興味・関心	私は、この授業を受けて、前よりこの教料を勉強するのが楽しくなった。〔私は、この授業を受けて、前よりこの教料(科目)が楽しみになった。〕	2.4	2.8
内容理解	私は、この授業の内容を理解できている。	3.0	3.0
学力向上	私は、この授業を受けて、この教料の勉強ができるようになったと感じている。〔私は、この授業を受けて、この教料(科目)の技術・技能が向上したと感じている。〕	2.7	2.9
難易度※2	この授業の教材や授業、課題の難易度(レベル)は、私の力を伸ばすのにちょうどよい。	3.6	3.6
分量※3	この授業の教材や課題の分量は、私の力を伸ばすのにちょうどよい。	3.6	3.7

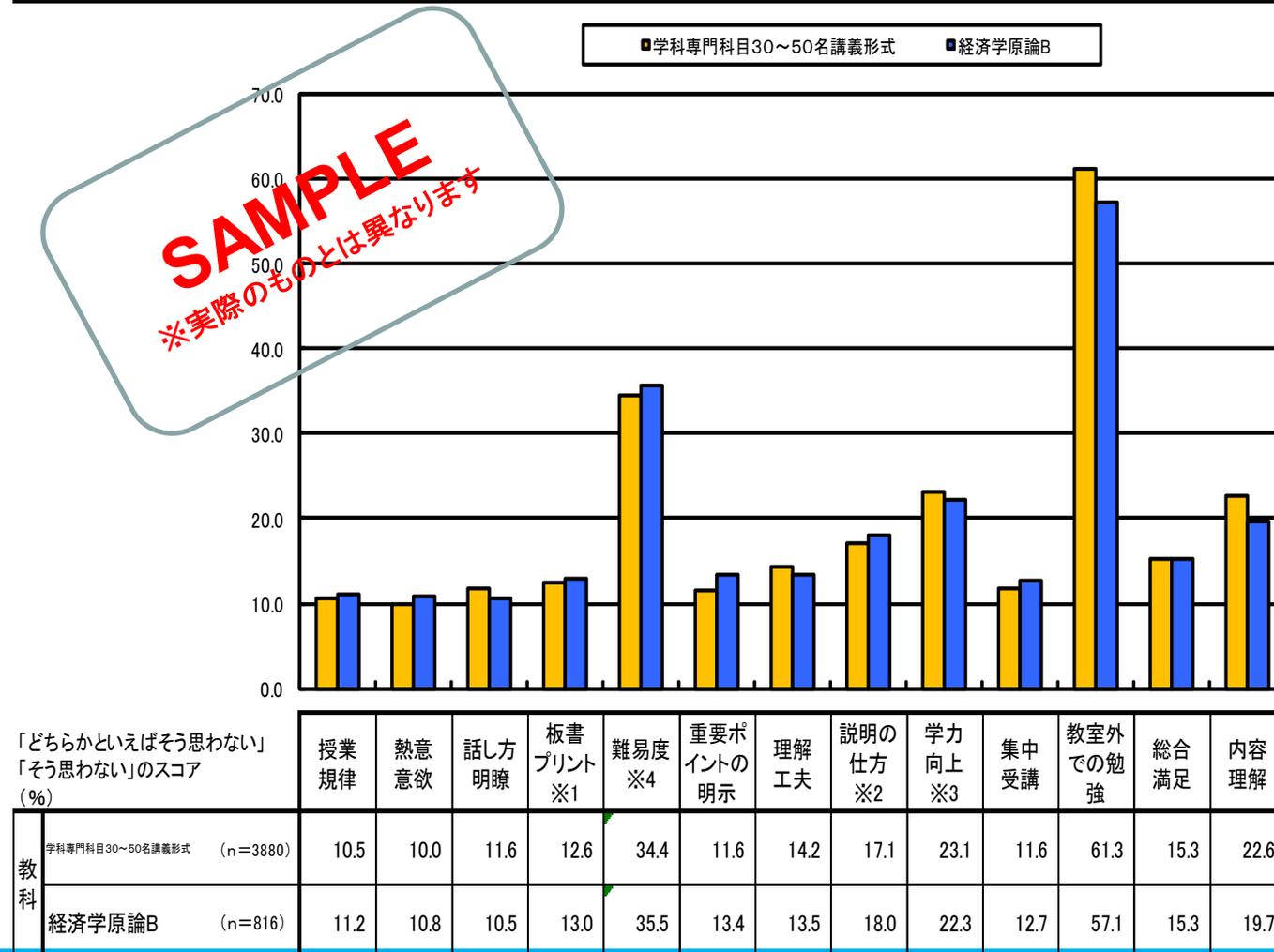
評価軸	質問項目	当該平均	全体平均
理解工夫	この授業の先生は、授業内容を理解させるために、教科書の他に「プリント、資料集、問題集等の教材を活用している。〔この授業の先生は、技能を向上させるのにちょうどよい教材や課題を与えている。〕	3.1	3.3
質問対応	この授業の先生は、生徒が質問した時に丁寧に答えられている。	2.8	3.2
理解配慮	この授業の先生は、生徒が理解しているかどうかを確認しながら、授業をしている。〔この授業の先生は、生徒ができるようになったかを確認しながら、授業を進めてくれる。〕	2.8	3.1
ガイダンス	この授業の先生は、毎回の授業の初めに、その日の授業内容やテーマをきちんと示してくれる。〔この授業の先生は、毎回の授業の初めに、その日の授業のねらいや学習の目標をきちんと示してくれる。〕	3.0	3.2
私語対応	この授業の先生は、おしやべりをするなど集中していない生徒がいると注意している。	3.1	3.3
板書プリント(指示・説明)	この授業の先生の板書や配布物(資料・プリント等)は分かりやすい。この授業の先生の指示や説明は分かりやすい。	3.1	3.2
話し方明瞭	この授業の先生の話し方はハッキリとしていて聞き取りやすい。	3.1	3.4
熱意意欲	この授業の先生からは、生徒に分かる授業をしようという熱意や意欲(一生けんめい)が感じられる。	2.7	3.2

※平均は、強くそう思う4点、ややそう思う3点、あまりそう思わない2点、全くそう思わない1点として加重平均しています。  
 ※2 難易度・※3 分量(質問14-15)の平均は、ちょうどよい4点、やや難しい(やや多い)3.25点、やや難しい(やや多い)2.5点、難しすぎる(多すぎる)=1.75点、易しすぎる(少なすぎる)=1点として表示しています。  
 難易度は計算に含まれません。  
 ※( )内は実技系科目の質問内容

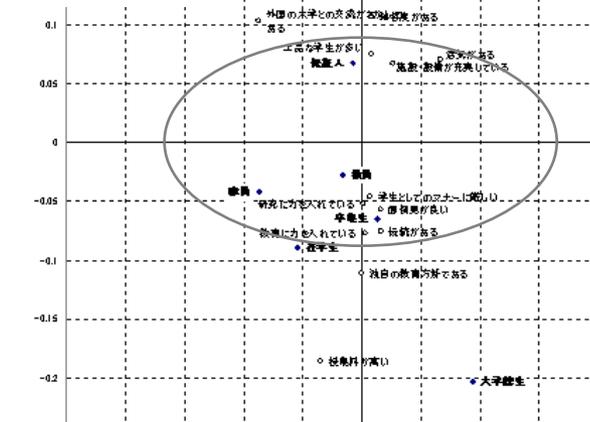
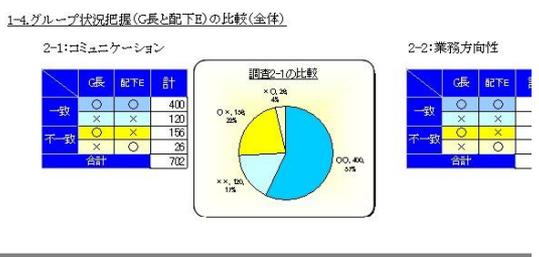
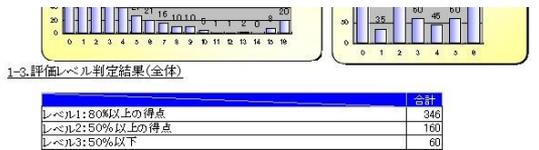
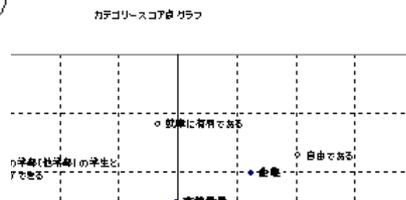
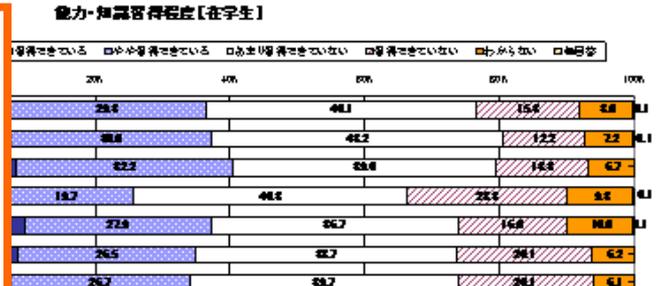
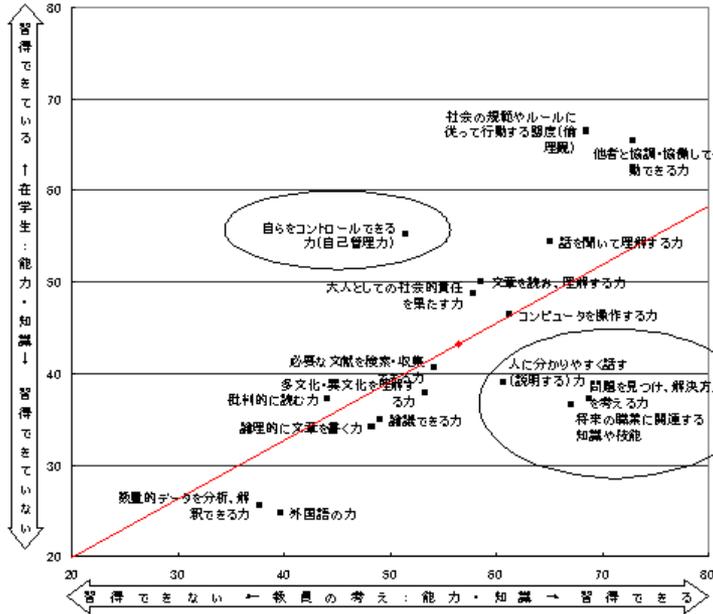


## 6. 授業評価：集計結果イメージ

## 科目別集計 否定回答【経済学原論B】



# 6. 授業評価: 集計結果イメージ



※実際のアウトプットと異なる場合があります。

## 7. スケジュール例(春学期の場合)

時期	内容
4月	<b>【教員向け講演会】</b> テーマ例 「平成生まれ世代の気質と初中等教育の現状について」
4月下旬～5月中旬	<b>【第1回訪問会議】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ プロジェクトの内容と進め方についての説明</li><li>・ 設問内容の確認(プロジェクトメンバー)</li></ul>
6月中旬～7月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業評価の実施(貴学)</li></ul>
10月	<b>【第2回訪問会議】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業評価の結果報告</li></ul>

# OPTION: CES満足度調査について

学内外の対象者に対して、アンケート調査を実施し、経営戦略・将来構想実現に向けた課題分析を行います。

## (1) 学内調査

学生：満足度アンケート

教職員：満足度アンケート

教育内容、学生支援、就職指導など、あらゆる領域における学生の満足度とニーズ、課題について客観的に把握します。また、学生・教職員間の認識のギャップを把握することで、貴学の魅力向上のための方策を考えます。

法人役員：訪問ヒアリング

(OPTION)

必要に応じ、法人トップへのグループインタビューを実施し、大学経営の上流と下流の双方からの現状分析が可能です。

## (2) 学外調査

高校関係者：アンケート ※1

高校教員が持つ貴学の現在のイメージと、高校教員が求める(生徒に勧めたい)大学像・大学選択の嗜好や条件の優先順位を対比し、貴学が今後取り組むべき課題について分析します。

企業人事部：アンケート ※2

(OPTION)

必要に応じ、企業人事担当者へのアンケートを実施し、企業が持つ貴学の現在のイメージと企業が求める(期待する)人物像を対比することで、貴学の入り口と出口、双方からの現状分析が可能です。

※1 入学者上位高校、指定校推薦校および確保したい層の生徒が在籍する高校の進路指導教員にアンケートを実施します。

※2 採用実績がある企業、学生の就職希望上位企業の人事担当者にアンケートを実施します。

本資料に関するお問い合わせは下記までお願いします。

本資料を複製したり第三者に提供される場合には、必ず事前にご連絡ください。

また、弊社の競合他社等への本資料の開示は固くお断りいたします。

株式会社ソファー

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-18-1 TOMOEビル5階

TEL:03-6820-0058 FAX:03-5348-0207

<http://www.s-offer.co.jp>